
2 ASEAN 貿易におけるベトナム台頭の含意

大木 博巳 *Hiromi Oki*

(一財) 国際貿易投資研究所 研究主幹

要約

ASEANの貿易は、大きな転換期を迎えている。ASEAN貿易の牽引役が、ASEAN先発国からASEAN後発国のベトナムに交代しようとしている。

リーマンショック後のASEAN貿易は、ASEAN先発国の貿易が頭打ちとなっている中で、ベトナムの貿易が飛躍的に拡大して、ASEAN最大の輸出国として台頭している。

今後のASEAN貿易を展望する視点として、第1位にベトナムの貿易の躍進がどこまで続き、ミャンマー等のASEAN後発国がベトナムに続いて登場するのか、第2に、ASEAN先発国は貿易を活性化させることができるのか、第3にASEAN域内貿易の活性化に何をすべきか、ということであろう。

第1点について、ベトナムは、中長期的にみて、韓国大手財閥グループの系列企業や中小企業の現地進出が既に始まっており、ベトナムで操業している日系企業とも相まって、産業集積の蓄積が進む。

ベトナムにおける相次ぐ量産工場の設立は、労働者の確保を難しくし、賃金を上昇させる。こうした動きは、カンボジアやラオスなど周辺国へ生産シフトを促す一方で、ベトナムの産業を高度化させる機運を高めるものとなる。

ASEAN域内貿易の活性化については、消費市場が拡大しているASEAN域内で最終財の取引を拡大させることにある。市場統合の強化とASEAN企業の育成が重要となる。

1. ASEAN貿易におけるベトナムの台頭

ASEANの貿易は、東アジアでは中国に次ぐ第2位の貿易規模を誇っている。世界貿易に占めるシェアでは、1985年の3.9%が2016年には7.3%へとほぼ倍増している（表1）。しかし、ASEAN貿易の成長率は2010年以降では域外、域内貿易ともに横ばいで停滞している（図1）。

ASEAN貿易の特徴として、以下のことが指摘できる。

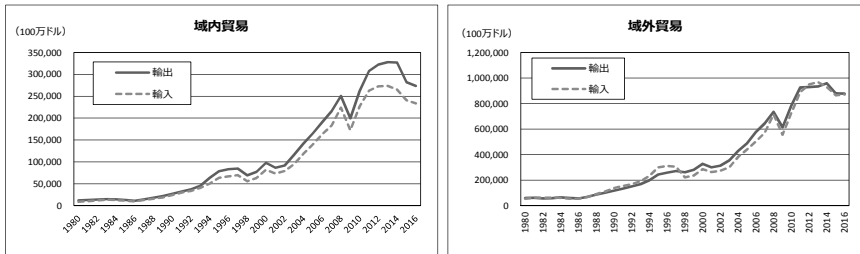
第1は、ASEAN貿易はASEAN域外に依存していることである。ASEANの域外輸出は、世界貿易に占める比率でみて、1980年の3.2%から2016年に5.5%に拡大、一方、域内輸出の比率は、1980年の0.7%から2016年は1.7%にとどまり、格差が拡大している。ASEANは1980年の初期の段階から域外輸出に依存し、36年間で域外貿易は2.4%ポイントのシェアを増加させているが、域内貿易は1.0%ポイントとどまっている。36年間を平均してASEAN貿易の8割弱が域外貿易で占められている。

第2は、ASEANの貿易成長率が2010年以降に大きく鈍化していることである。ASEANの貿易成長率は、1990年代に11.5%、2000年代には9.4%で拡大していたが、2010年から2016年間では、1.6%に鈍化している。

貿易の鈍化は、シンガポール、マレーシア、タイ等のASEAN先発国と呼ばれる諸国で顕著である。他方、ベトナムやミャンマー、カンボジア等のASEAN後発国では高成長で拡大している。低成長国と高成長国の2極分化が進んでいる。

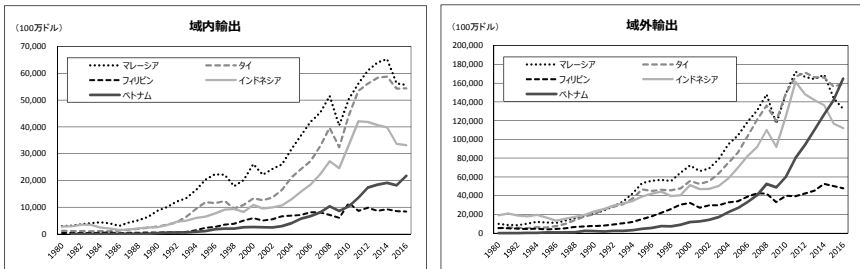
第3は、ASEANの貿易拡大に対するASEAN域外貿易の寄与が高まっていることである。ASEANの貿易成長率に対する域内・域外別の増加寄与率（表2）は、2010年から2016年間では、輸出成長率に対して域内が11.1%、域外が88.9%、輸入では域内が4.6%、域外が95.4%とASEANは域外貿易に貿易成長の糧を求めている。ASEAN貿易の拡大に対する域内貿易の寄与率は、輸出で1980、1990、2000年の各年代では20%を超えていた。

図1 ASEAN10 各国の域内・域外貿易



資料：IMF; Direction of Trade Statistics (DOT)

図2 ASEAN 主要国の域内・域外輸出



資料：IMF; Direction of Trade Statistics (DOT)

また、2010~2016年間では、域外貿易における貿易相手国では、輸出では、中国と米国、輸入では中国の寄与率が高い。他方、日本のASEAN貿易拡大に対する寄与率は、1980、1990年代では輸出では米国に次ぎ、輸入では主要国中で最大であったが、2000年代以降に中国に抜かれている。ASEAN貿易拡大の牽引力は、東アジアにおいては日本から中国に移っている。

第4は、アセアン貿易をけん引する国の交代である。これまで、ASEANの貿易を牽引していた国は、ASEAN先発国と呼ばれる諸国（シンガポール、マレーシア、タイ、インドネシアなど）であった。しかし、2000年代にはいるとASEAN先発国の貿易成長率が鈍化し始める一方で、ASEAN加盟が遅れた後発国、中でもベトナムの貿易拡大が顕著である。

ベトナムの貿易は、世界貿易に占める比率で2016年には1.2%とマレーシアと並び、タイの1.3%を超えることが確実視されている。

ベトナムの貿易拡大は、特にASEAN域外貿易で顕著になっている。図2は、ASEAN主要国の域内、域外輸出の推移を見たものであるが、ベトナムのASEAN域外輸出は2000年代初めには緩やかな拡大基調に留まっていたが、2010年以降には、急拡大をしてASEAN先発国を一気に追い抜いて、ASEANの新輸出大国として台頭している。

表 1 各国の輸出シェアと伸び率

国名	世界貿易に占めるシェア (%)					平均伸び率 (%)			
	1980	1990	2000	2010	2016	1980-1990	1990-2000	2000-2010	2010-2016
日本	7.1	8.5	7.4	5.1	4.1	8.2	5.2	4.9	-2.9
中国	1.0	1.9	3.9	10.4	13.5	13.2	14.8	20.3	5.2
韓国	1.0	2.0	2.7	3.1	3.1	14.5	9.8	10.5	1.0
香港	1.1	2.4	3.1	2.6	2.9	15.3	9.4	6.8	2.9
台湾	-	1.5	2.0	1.5	1.3	-	10.0	6.2	-1.6
ASEAN10	3.9	4.3	6.6	6.9	7.3	7.3	11.5	9.4	1.6
域内	0.7	0.8	1.5	1.7	1.7	8.2	13.7	10.3	0.7
域外	3.2	3.5	5.1	5.2	5.5	7.1	10.9	9.1	1.9
シンガポール	1.1	1.6	2.1	2.3	2.1	10.5	10.1	9.8	-1.1
シンガポール(再輸出)	NA	NA	0.9	1.1	1.1	NA	NA	11.1	0.2
インドネシア	1.2	0.8	1.0	1.0	0.9	1.6	9.2	9.8	-1.4
マレーシア	0.7	0.9	1.5	1.3	1.2	8.5	12.8	7.3	-0.9
タイ	0.4	0.7	1.1	1.3	1.3	13.5	11.6	10.9	1.7
フィリピン	0.3	0.2	0.6	0.3	0.4	3.5	16.6	3.0	1.5
ベトナム	-	0.1	0.2	0.5	1.2	-	19.1	17.1	17.7
カンボジア	-	0.0	0.0	0.0	0.1	-	41.8	15.1	10.4
ラオス	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	17.9	18.9	15.3
ミャンマー	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	-0.2	20.1	11.7	7.3
ブルネイ	0.3	0.1	0.0	0.1	0.0	-7.0	2.4	12.2	-8.5
インド	0.5	0.5	0.7	1.5	1.7	7.8	9.1	18.0	2.7
豪州	1.2	1.2	1.0	1.4	1.2	5.9	5.0	12.8	-1.7
ニュージーランド	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	5.7	3.0	9.4	1.2
米国	12.1	11.6	12.0	8.4	9.2	5.9	7.0	5.2	2.2
EU	43.1	44.9	38.0	34.2	34.0	6.8	4.9	7.8	0.6
その他	28.9	20.9	22.4	24.7	21.5	2.9	7.4	10.0	-1.6
世界計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	6.3	6.7	8.9	0.7

資料：IMF; Direction of Trade Statistics (DOT)、ITI貿易マトリックス

表2 ASEAN貿易の域内・域外別増加寄与率（％）

年	輸出								世界計
	ASEAN 域内	ASEAN 域外							
			日本	中国	米国	TPP	RCEP	EU	
1980-1990	20.3	79.7	8.4	2.6	22.4	47.4	39.2	18.9	100.0
1990-2000	25.2	74.8	10.5	4.9	18.7	52.2	49.3	14.3	100.0
2000-2010	26.4	73.6	7.4	15.5	3.1	28.6	63.8	8.3	100.0
2010-2016	11.1	88.9	-6.1	30.9	29.8	22.4	32.7	14.8	100.0

年	輸入								世界計
	ASEAN 域内	ASEAN 域外							
			日本	中国	米国	TPP	RCEP	EU	
1980-1990	15.5	84.5	23.7	2.9	13.9	54.8	50.0	16.6	100.0
1990-2000	28.1	71.9	16.0	6.7	13.7	50.5	59.8	7.4	100.0
2000-2010	24.7	75.3	8.0	18.5	5.5	29.1	63.1	8.4	100.0
2010-2016	4.6	95.4	-9.0	62.0	-0.9	-7.1	72.6	8.8	100.0

資料：DOTよりITI作成

2. ASEAN業種別貿易の構造変化

ASEAN貿易におけるベトナムの台頭にもかかわらず、ASEAN貿易全体に停滞感が否めない。これは、ASEAN貿易の最大の品目である機械機器貿易の成長が鈍化しているためである。ASEANの機械機器貿易は域内貿易、域外貿易ともに停滞している。ASEAN貿易に占める機械機器貿易のシェアは、2015年の輸出では、域内が42.0%、域外が45.2%である。2000年では域内が59.6%、域外が53.9%と、ともにシェアを低下させているが、特に域内貿易で後退している（表3）。機械機器貿易の成長率は、域内輸出では、2000年から2010年間の6.0%が2010～2015年間で1.9%、域外輸出では同じく6.9%から4.9%に鈍化している。機械機器の域外貿易の成長率の鈍化が2.0%ポイントの低下にとどまっているのは、ベトナムの機械器輸出の拡大によるものである。

ASEAN貿易の中核である機械機器貿易の不振は、一般機械と電機にある。ASEAN輸出に占める一般機械のシェアは、域内輸出で2000年の18.6%

表3 ASEAN10の域内・域外輸出（業種別）構成比・伸び率

分類名	域内・域外比率 (%)				業種別構成比 (%)				平均伸び率 (%)			
	2000		2015		2000		2015		2000-2010		2010-2015	
	域内	域外	域内	域外	域内	域外	域内	域外	域内	域外	域内	域外
総額	23.8	76.2	24.3	75.7	100.0	100.0	100.0	100.0	10.0	9.2	1.5	2.3
飲食物性燃料等	28.1	71.9	42.7	57.3	12.4	9.9	20.5	8.8	16.3	12.8	0.3	-6.3
石油及び同製品	37.6	62.4	54.8	45.2	11.4	5.9	16.6	4.4	15.0	12.4	-0.0	-8.9
食料品	21.3	78.7	27.6	72.4	5.0	5.8	8.6	7.2	12.9	9.9	7.1	5.6
魚介類	8.6	91.4	13.6	86.4	0.5	1.8	0.5	1.1	6.6	5.1	7.2	-0.7
コーヒー	11.2	88.8	9.7	90.3	0.1	0.2	0.1	0.4	7.8	12.2	11.0	5.9
穀物	22.7	77.3	26.4	73.6	0.5	0.6	0.8	0.7	17.5	13.2	-4.3	-1.0
とうもろこし	67.9	32.1	70.7	29.3	0.0	0.0	0.1	0.0	27.9	10.5	-3.6	25.9
米	22.3	77.7	25.0	75.0	0.5	0.5	0.7	0.7	16.9	13.3	-4.3	-1.1
加工食品	28.6	71.4	33.8	66.2	2.7	2.1	5.3	3.4	14.3	12.4	7.9	6.4
油脂その他の動植物生産品	12.5	87.5	12.5	87.5	0.8	1.7	1.5	3.5	20.4	18.6	-2.9	-0.1
化学品	28.7	71.3	26.1	73.9	9.0	7.0	12.5	11.3	12.7	15.5	3.1	0.8
化学工業品	33.5	66.5	28.0	72.0	5.2	3.2	6.8	5.6	11.6	15.1	3.8	2.8
医薬品	42.5	57.5	15.1	84.9	0.2	0.1	0.4	0.8	12.6	33.0	10.2	5.1
プラスチック・ゴム	24.0	76.0	24.0	76.0	3.8	3.8	5.7	5.8	14.1	15.8	2.2	-0.9
鉄鋼	41.9	58.1	36.8	63.2	1.9	0.8	2.9	1.6	15.7	14.7	-0.8	5.4
鉄鋼の一次製品	35.6	64.4	43.1	56.9	0.7	0.4	1.1	0.5	18.8	11.7	-3.8	2.2
鉄鋼製品	46.4	53.6	33.5	66.5	1.2	0.4	1.7	1.1	13.6	16.7	1.5	7.0
機械機器	25.7	74.3	23.0	77.0	59.6	53.9	42.0	45.2	6.0	6.4	1.9	4.1
一般機械	22.3	77.7	26.2	73.8	18.6	20.3	12.4	11.2	6.4	3.9	-0.1	0.3
鉱山・建設機械	52.8	47.2	47.9	52.1	0.6	0.2	1.1	0.4	17.7	17.3	0.1	4.7
工作機械	37.2	62.8	22.6	77.4	0.1	0.1	0.1	0.1	6.8	7.3	-5.1	8.5
タービン	34.0	66.0	14.9	85.1	0.1	0.0	0.3	0.6	24.6	29.8	7.0	22.3
エンジン	38.6	61.4	37.3	62.7	0.4	0.2	0.7	0.4	19.6	16.4	-2.4	4.2
ベアリング及び同部分品	44.2	55.8	43.6	56.4	0.5	0.2	0.3	0.1	6.0	7.9	-1.2	-4.2
コンピュータ及び周辺機器類（合計）	18.9	81.1	19.1	80.9	13.1	17.5	3.8	5.2	0.0	-0.3	-4.1	-3.7
コンピュータ及び周辺機器	8.1	91.9	14.3	85.7	2.8	10.0	1.9	3.7	5.0	0.2	3.1	-0.3
コンピュータ部品	29.9	70.1	34.7	65.3	10.2	7.5	1.8	1.1	-2.1	-2.1	-9.6	-13.4
電気機器	28.1	71.9	20.7	79.3	37.5	30.0	21.3	26.1	3.5	6.4	2.3	4.8
通信機器	14.9	85.1	15.4	84.6	1.3	2.2	2.7	4.7	10.2	2.8	17.4	33.9
携帯電話	-	-	17.4	82.6	-	-	2.0	3.1	NA	NA	21.1	51.0
半導体等電子部品類	28.8	71.2	19.2	80.8	21.7	16.8	10.3	13.8	2.2	7.2	1.1	2.2
電子管・半導体等	34.0	66.0	19.6	80.4	4.1	2.5	1.5	1.9	0.2	7.5	-0.4	0.4
集積回路	27.8	72.2	19.2	80.8	17.6	14.3	8.8	11.9	2.7	7.1	1.4	2.6
その他の電気・電子部品	40.0	60.0	29.3	70.7	9.5	4.5	3.9	3.0	1.8	5.8	-0.9	1.0
ディスプレイモジュール	39.6	60.4	25.0	75.0	1.4	0.7	0.3	0.3	-3.3	5.9	-2.0	-6.3
映像機器類	11.0	89.0	17.0	83.0	0.9	2.2	0.8	1.3	10.4	6.8	-0.2	-3.6
デジタルカメラ	-	-	11.1	88.9	-	-	0.1	0.4	NA	NA	-3.5	-3.2
テレビ受像機（液晶・プラズマを含む）	-	-	24.7	75.3	-	-	0.5	0.5	NA	NA	5.7	-8.4
音響機器	8.1	91.9	14.1	85.9	0.1	0.5	0.0	0.0	-5.0	-16.5	-15.8	-3.7
輸送機器	27.2	72.8	29.0	71.0	1.9	1.6	5.8	4.5	21.1	18.4	4.1	6.8
自動車	12.7	87.3	26.9	73.1	0.2	0.5	2.0	1.8	33.6	20.7	5.6	7.5
乗用車	32.5	67.5	31.1	68.9	0.1	0.1	1.4	1.0	38.1	35.6	3.9	9.0
貨物自動車	6.5	93.5	20.1	79.9	0.1	0.4	0.6	0.8	27.7	14.5	9.7	5.4
二輪自動車	61.3	38.7	35.2	64.8	0.2	0.0	0.3	0.2	4.2	14.6	21.1	24.2
自動車部品	33.8	66.2	35.0	65.0	0.7	0.4	1.8	1.1	19.9	18.7	4.2	5.3
自動車用エンジン	63.1	36.9	52.4	47.6	0.0	0.0	0.1	0.0	26.9	29.8	4.9	9.4
ギヤボックス	76.5	23.5	33.8	66.2	0.1	0.0	0.2	0.1	16.0	27.0	5.0	26.8
駆動軸	55.4	44.6	35.3	64.7	0.0	0.0	0.1	0.0	34.6	48.5	10.6	7.0
精密機器	19.5	80.5	19.4	80.6	1.5	2.0	2.5	3.4	13.9	10.5	4.5	11.2
繊維及び同製品	9.7	90.3	8.3	91.7	2.5	7.3	1.9	6.6	4.9	5.0	4.9	8.4
繊維	21.7	78.3	23.2	76.8	1.7	1.9	1.3	1.3	5.9	5.2	3.0	2.6
縫製品	4.4	95.6	3.5	96.5	0.8	5.4	0.6	5.2	2.6	4.9	9.7	10.2
雑製品	7.8	92.2	8.7	91.3	1.0	3.5	1.2	4.1	8.3	6.9	9.4	9.8

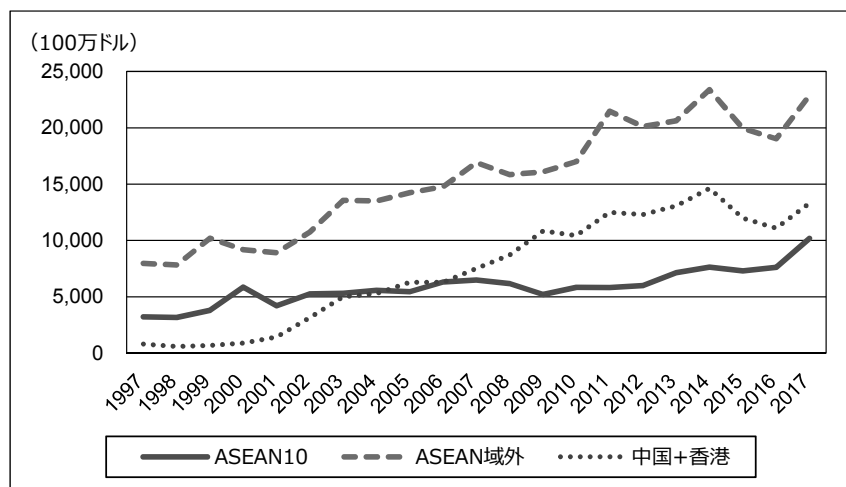
注：雑製品：HS62-67、HS92-97

資料：各国貿易統計

から2015年に12.4%、域外輸出では、同じく20.3%から11.2%に半減している。これは、コンピュータ・周辺機器の輸出が落ち込んでいるためである。2010～2016年間におけるコンピュータ・周辺機器の輸出伸び率は、域内でマイナス4.1%、域外輸出もマイナス3.7%と縮小している。ASEAN貿易を牽引してきたコンピュータが頭打ちとなってきた。

電機貿易は、ASEANの域内輸出に占める電機のシェアが、2000年の37.5%から2015年に21.3%、域外輸出では、同じく30.0%から26.1%と特に域内輸出で落ち込んでいる。いずれも電機輸出の中でもASEANの最大の輸出品目である集積回路の輸出が、鈍化している。ASEAN最大の集積回路輸出国であるマレーシアの集積回路輸出は、緩やかな拡大基調にあったが2011年以降には、伸びが止まり横ばいで推移するようになっている（図3）。特に、最大の輸出先である中国（香港を含む）向け集積回路が2014年以降に、伸び悩んでおり、中国の集積回路輸入に占めるマレーシアのシェアは低下傾向にある。半導体の需要は、PC、タブレットやTV、DVDなどの家電で減退している一方で、携帯電話、自動車関連は拡大している。

図3 マレーシアの集積回路輸出



資料：マレーシア貿易統計

乗用車や貨物自動車の自動車貿易も2010年～2016年間で、大幅に鈍化して勢いを失っている。

自動車では、乗用車、ピックアップトラックや自動車部品が2000年代初めにASEANの輸出品目として登場した。AFTAによってASEAN域内関税が引き下げられたこと、日系自動車メーカーがASEAN専用車を開発して生産体制を整備したこと等がASEANの自動車・部品貿易を促進した。ASEAN貿易に占めるシェアは、2015年で域内が2.0%域外が1.8%と僅かである。

通信機器では携帯電話（スマートフォン）の輸出が2010年頃からベトナムで始まり、2016年には1億2,000万台を欧米市場向けに輸出している。

携帯電話は、急成長しているが、ASEAN輸出に占めるシェアは、まだ小さく、コンピュータ・周辺機器を下回っている。

ASEANの自動車や携帯電話の輸出は、ASEAN域外からの部品輸入を促進している。特に携帯電話では、韓国、中国からの電子部品の輸入急増を招いている。

ASEANの機械貿易の停滞は、主力輸出品の成熟化（コンピュータ・周辺機器）、中国、韓国からの輸入依存の拡大（電子部品、半導体等）、ASEAN域内需要の一段落（自動車販売）等がその要因として指摘できよう。

一方、貿易成長率が2000～2010年の平均を上回っている品目もある。域内輸出では、牛肉、豚肉、通信機器、縫製品などである。域外輸出では、牛肉、魚介類、マシニングセンター、通信機器、繊維、縫製品、雑製品などである。

業種別構成比でシェアを拡大させているのは、石油価格が高騰した鉱物性燃料（石油製品等）および食料品、化学品、繊維縫製品等である。

ASEANの国別業種別貿易の構成比（2015年）をみると、工業品の輸出ですみ分けができている（表4）。すなわち、ベトナムは、携帯電話、縫製品、雑製品にASEAN輸出に占める比率が高く、比較優位を持っている。タイは、食料品、プラスチック・ゴム、一般機械、輸送機器でASEAN輸出をリードしている。マレーシアは半導体等電子部品、油脂（パームオイル）、

テレビの比率が高い。インドネシアは縫製品や雑製品でシェアを失いつつある一方で、繊維や油脂、鉱物性燃料で輸出シェアが高い。

ASEANの工業品貿易でベトナムは、消費財に加えて通信機器の輸出が立ち上り、さらに、次の輸出品として家電が控えている。従来のASEAN先発国が優位に立っていた国別工業品輸出の構造が変化し始めている。

表4 ASEAN 輸出に占める域外輸出比率（主要国別・業種別、2015 年）

（単位：％）

	ベトナム	タイ	マレーシア	インドネシア	シンガポール (再輸出を除く)	ASEAN10	
						域外	世界
総額	12.4	13.5	12.3	10.1	10.5	75.7	100.0
鉱物性燃料等	2.0	1.6	15.7	19.0	12.2	57.3	100.0
食料品	21.4	25.5	4.7	9.5	3.5	72.4	100.0
穀物	22.1	46.6	0.0	0.0	0.0	73.6	100.0
加工食品	8.8	27.9	7.2	8.4	6.2	66.2	100.0
油脂その他の動植物生産品	0.8	0.9	32.3	48.3	0.5	87.5	100.0
化学品	4.5	18.6	12.6	9.7	20.5	73.9	100.0
プラスチック・ゴム	6.4	28.3	14.9	10.6	10.6	76.0	100.0
鉄鋼	11.0	16.0	12.7	12.0	3.6	63.2	100.0
鉄鋼の一次製品	12.8	6.9	8.5	13.7	6.0	56.9	100.0
鉄鋼製品	10.1	20.7	14.9	11.2	2.4	66.5	100.0
機械機器	11.2	15.1	13.0	2.5	10.2	77.0	100.0
一般機械	6.8	22.1	11.4	2.3	14.0	73.8	100.0
コンピュータ及び周辺機器	11.6	27.8	16.0	0.3	12.3	85.7	100.0
コンピュータ部品	3.2	15.9	15.1	0.2	9.9	65.3	100.0
電気機器	15.0	8.1	15.5	2.0	8.0	79.3	100.0
通信機器	59.5	3.5	7.4	0.5	3.0	84.6	100.0
携帯電話	72.0	0.4	2.2	0.1	1.1	82.6	100.0
半導体等電子部品類	2.8	4.6	17.6	0.1	10.6	80.8	100.0
電子管・半導体等	2.9	3.4	30.7	0.7	10.0	80.4	100.0
集積回路	2.8	4.7	15.4	0.1	10.7	80.8	100.0
その他の電気・電子部品	8.9	12.7	15.6	4.3	8.7	70.7	100.0
ディスプレイモジュール	7.5	13.2	22.1	7.8	5.1	75.0	100.0
映像機器類	26.1	23.4	14.3	10.2	2.1	83.0	100.0
デジタルカメラ	24.0	45.4	2.9	4.1	1.5	88.9	100.0
テレビ受像機（液晶・プラズマを含む）	10.6	22.7	26.3	13.2	0.0	75.3	100.0
写真機（映画用撮影機を除く。）※	87.9	4.5	4.6	0.0	-	97.0	100.0
音響機器	9.1	36.2	28.4	0.2	0.5	85.9	100.0
輸送機器	3.9	35.1	3.8	6.0	5.3	71.0	100.0
自動車	0.0	63.1	0.5	8.5	0.0	73.1	100.0
乗用車	0.0	54.1	0.2	13.8	0.0	68.9	100.0
貨物自動車	0.0	78.1	0.1	1.2	-	79.9	100.0
二輪自動車	11.6	40.1	0.4	8.7	0.0	64.8	100.0
自動車部品	5.9	34.2	3.8	7.0	0.9	65.0	100.0
繊維及び同製品	41.7	8.5	3.8	18.1	0.4	91.7	100.0
繊維	23.5	16.8	6.9	26.4	1.2	76.8	100.0
縫製品	47.7	5.8	2.8	15.4	0.1	96.5	100.0
雑製品	48.4	7.3	7.5	19.5	0.6	91.3	100.0

※写真機は、ベトナム、タイ、マレーシア、インドネシアの合計をASEAN計とみなして計算。

資料：各国貿易統計より作成

3. ASEANの財別貿易収支構造の変化

ASEAN貿易は、域外から中間財を輸入して、域外に最終財を輸出する加工貿易が基本である。また、ASEAN域内貿易（輸出）も、6割超が中間財取引で占められており、これも一部は最終財輸出の部品として使われている。

こうしたASEANの加工貿易構造は、2000年と2016年を比較すると大きな変化がある。表5は、ASEAN4か国（インドネシア、マレーシア、タイ、ベトナム）の財別業種別貿易額と収支である。ASEAN4か国の域外貿易収支は、2016年で、加工品が486億ドルの赤字、部品も306億ドルの赤字と合計して中間財で792億ドルの赤字となっている。一方、資本財は64億ドル、消費財は1,108億ドルともに黒字を計上している。2000年の域外貿易収支と比べると、加工品が黒字から大幅赤字に転じ、部品の赤字幅が拡大、他方、消費財の黒字幅が大幅に拡大している。これはASEAN4か国だけのデータであるが、ASEAN全体でも中間財の域外調達、消費財の輸出というパターンが強化されているとみてよい。

ASEAN4か国の加工品貿易の赤字は、2016年で、化学品、鉄鋼、繊維が上位を占めている。ASEANがこれらの製品を域外輸入に依存しているのは、ASEAN域内では十分に供給できる産業構造（鉄鋼、繊維産業の欠落）になっていないことにある。これに加えて、ASEANにおけるインフラ投資が鉄鋼、化学品などの資材輸入を促進したことが指摘できる。ASEANが加工品を域外の輸入に頼っている業種は、鉄鋼と繊維で特に顕著である。

同じく部品の域外貿易収支赤字幅も拡大している。これは、電機部品の赤字が拡大していることに加えて、2000年には黒字であった一般機械部品の収支が2016年では赤字に転じている。電機部品では集積回路の貿易収支の赤字幅が大半を占めている。これは、ベトナムの集積回路輸入が急増しているためで、2016年にベトナムが輸入した集積回路の輸入額は、147億ドルとマレーシアの191億ドルに次いでいる。ベトナムは、電話機器の部品でも93億ドルの輸入をしており、電機部品貿易収支の悪化はベトナム要因（携帯電話

輸出の拡大)にある。

一方、黒字部門の最終財では、資本財の対域外貿易黒字が、電機で2016年に219億ドルを計上している。電機の貿易収支黒字は、ベトナムの携帯電話の黒字(239億ドル)によるものである。かつて、ASEANの機械貿易の黒字を支えていたコンピュータ・周辺機器は、2016年で128億ドルの黒字にとどまっている。また自動車も黒字を計上しているが、主力の貨物自動車でみ

表5 4か国(インドネシア、マレーシア、タイ、ベトナム)のASEAN域内・域外貿易

財・業種	金額(10億ドル)											
	輸出						輸入					
	2000		2016		2000		2016		2000		2016	
	域内	域外	域内	域外	域内	域外	域内	域外	域内	域外	域内	域外
総額	52.8	190.6	160.6	564.1	42.7	150.4	140.2	534.9	10.2	40.2	20.4	29.2
素材	4.9	19.1	13.9	45.1	3.3	15.3	12.5	48.8	1.6	3.8	1.4	-3.7
加工品	13.1	51.1	59.6	158.2	15.6	49.0	59.8	206.8	-2.5	2.0	-0.1	-48.6
鉱物性燃料	2.6	13.0	13.7	20.0	6.0	3.4	20.7	17.3	-3.4	9.6	-7.0	2.7
食糧	0.4	1.0	3.1	5.6	0.4	2.3	2.8	12.3	-0.1	-1.3	0.2	-6.7
油脂	0.5	4.3	3.6	26.4	0.2	0.2	1.7	0.7	0.3	4.2	1.9	25.6
化学品	3.5	8.8	15.1	36.7	4.5	16.5	16.6	61.2	-1.1	-7.7	-1.5	-24.5
繊維	1.2	5.5	3.1	10.8	0.6	5.1	2.0	21.9	0.6	0.4	1.1	-11.2
鉄鋼	1.0	2.0	4.8	10.0	0.9	8.7	3.9	38.3	0.1	-6.7	0.9	-28.4
非金属(鉄鋼を除く)	1.1	2.0	4.4	9.6	0.8	4.2	4.1	19.2	0.4	-2.2	0.3	-9.6
原皮、毛皮、革製品	0.1	0.3	0.4	0.8	0.1	0.6	0.4	2.2	-0.0	-0.4	0.0	-1.4
木材、木炭	0.5	6.2	1.0	8.6	0.3	0.3	0.9	1.6	0.1	5.9	0.1	7.0
貴石、貴金属等	0.3	0.8	3.1	9.0	0.3	1.9	1.6	9.8	0.0	-1.2	1.5	-0.8
部品	21.3	42.9	35.3	103.8	15.6	50.0	33.5	134.4	5.7	-7.1	1.8	-30.6
化学品	0.1	0.6	1.1	5.5	0.1	0.2	0.8	1.2	0.0	0.4	0.3	4.3
一般機械	8.1	15.5	8.6	15.9	3.7	10.4	7.3	28.2	4.4	5.1	1.4	-12.3
電気機器	12.4	25.1	19.7	68.1	11.2	34.1	20.6	87.1	1.2	-9.0	-0.9	-19.0
鉄道	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	-0.0	-0.0	-0.0	-0.3
車両	0.5	0.9	4.4	8.3	0.4	3.1	3.7	10.7	0.1	-2.2	0.7	-2.4
航空機	0.1	0.2	0.6	1.6	0.1	0.8	0.4	2.3	0.0	-0.6	0.2	-0.7
光学機器	0.1	0.3	0.6	3.5	0.2	0.8	0.5	2.4	-0.1	-0.5	0.0	1.1
資本財	6.1	27.2	19.4	100.5	4.4	23.3	17.2	94.1	1.7	3.9	2.2	6.4
一般機械	2.5	11.6	8.2	36.9	1.7	11.9	7.4	45.2	0.8	-0.3	0.8	-8.3
電気機器	3.0	11.6	5.5	49.0	2.0	6.1	5.3	27.1	1.0	5.4	0.2	21.9
車両	0.1	1.4	1.8	5.5	0.0	0.9	1.6	3.1	0.1	0.5	0.2	2.4
航空機	0.0	0.1	0.1	0.6	0.0	0.6	0.0	4.3	-0.0	-0.5	0.0	-3.7
船舶	0.1	0.1	1.3	1.0	0.3	0.9	0.7	2.3	-0.2	-0.8	0.7	-1.3
光学機器	0.2	1.5	1.5	5.4	0.3	2.4	1.4	9.2	-0.1	-0.9	0.1	-3.7
消費財	6.6	48.7	34.5	165.4	3.1	11.5	20.3	54.5	3.5	37.2	14.2	110.8
食糧	2.9	13.4	13.8	44.5	1.2	3.2	7.5	18.4	1.6	10.2	6.4	26.1
化学品	0.7	2.2	3.8	9.8	0.6	2.5	2.3	12.9	0.1	-0.3	1.5	-3.1
縫製品	0.4	11.0	0.8	33.9	0.1	0.7	0.7	3.7	0.3	10.4	0.1	30.3
原皮、毛皮、革製品	0.0	1.2	0.2	3.7	0.0	0.1	0.1	1.4	0.0	1.1	0.1	2.3
貴石、貴金属等	0.2	1.3	1.5	8.8	0.0	0.1	0.3	0.6	0.2	1.3	1.2	8.2
一般機械	0.2	1.3	2.3	5.1	0.1	0.2	1.8	0.9	0.2	1.2	0.5	4.3
電気機器	0.9	6.0	3.2	11.3	0.4	0.7	3.5	3.7	0.5	5.3	-0.3	7.6
車両	0.2	0.4	5.7	11.1	0.3	2.2	1.6	3.8	-0.0	-1.8	4.1	7.3
履物	0.1	4.0	0.6	18.3	0.0	0.5	0.5	1.7	0.1	3.5	0.1	16.5

資料：各国貿易統計

ると2016年の黒字幅は40億ドル程度である。

最終財の最大の黒字部門は消費財である。消費財の中で、食糧品、縫製品、履物が消費財貿易黒字の65%を占めている。

縫製品の輸出は、域外で339億ドル、域内は8億ドル、輸入では、域外が36億ドル、域内が6.7億ドルである。縫製品輸出に占める域内輸出の比率は2.3%、輸入は15.6%と輸出はほぼASEAN域外向けである。輸出国はベトナムで4か国の域外輸出の68.6%、輸入国はマレーシアで域外輸入の47%、域内輸入の59.7%を占めている。

食糧品の貿易は、2016年で輸出が域外445億ドル、域内が134億ドル、輸入は域外が184億ドル、域内75億ドルと輸出が輸入を上回っている。ASEANは輸出国であると同時に輸入国でもある。主な輸出品は魚介類、果実調整品等である。

財別にみたASEANに域内貿易の特徴は、最終財の比率が低いことである。中でも、消費財の比率が小さい。輸出でみると、域外輸出の23.3%、域内輸出では16.0%に過ぎない。市場経済統合が進んでいるEUでは、域内貿易に占める最終財は、4割を超えている。

趨勢的にみると、加工品、部品の対域外貿易収支の赤字幅は拡大する一方で、消費財の黒字幅が拡大している。域外貿易収支で赤字と黒字の2極分化が進んでいる（表6）。

ASEAN4か国の域外貿易収支の推移を見ると、加工品と部品の赤字幅が拡大する傾向にある一方で資本財は赤字幅が縮小して黒字化し、消費財は黒字幅が拡大している（図4）。これは、ベトナムの貿易収支の動向を反映したもので、加工品、部品の赤字幅は拡大、消費財に加えて資本財が黒字に転換して、ベトナムはASEAN貿易の稼ぎ頭に成長している。

2015年のASEAN4か国の貿易収支は、タイが域外貿易で赤字を計上し、それを域内貿易の黒字で補っている一方で、ベトナムの貿易収支は域内では赤字、域外は加工品、部品の大幅赤字を、資本財、消費財の黒字で相殺し、域外貿易収支は黒字転換している。

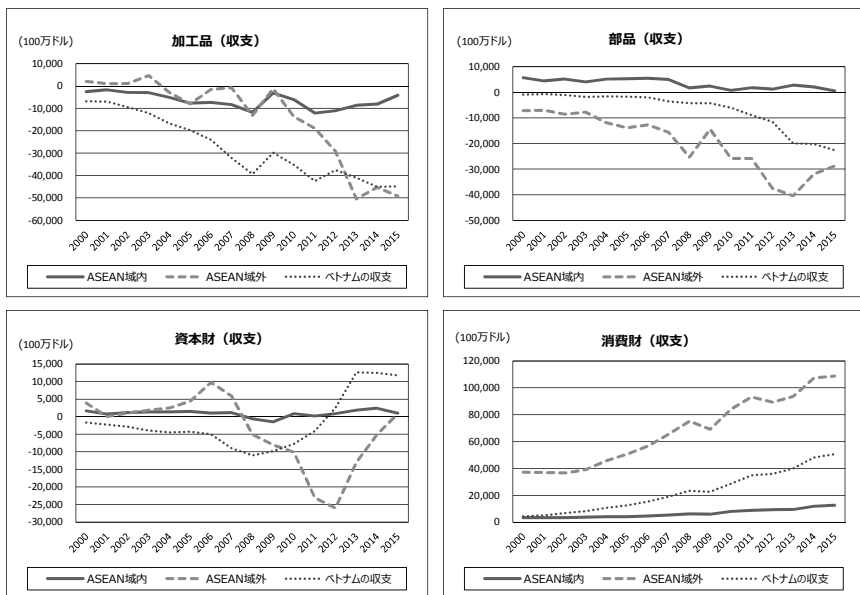
表6 インドネシア、マレーシア、タイ、ベトナムの財別貿易収支（2015年）

（単位：100万ドル）

国名	収支											
	総額		素材		加工品		部品		資本財		消費財	
	域内	域外	域内	域外	域内	域外	域内	域外	域内	域外	域内	域外
インドネシア	-5,265	12,963	6,392	12,541	-11,126	3,913	-1,551	-9,795	-2,071	-14,517	3,041	21,986
マレーシア	9,495	13,665	790	-1,135	2,589	10,212	3,189	2,639	954	423	2,943	2,918
タイ	13,351	-4,445	-7,852	-14,217	10,493	-24,479	998	-1,155	1,463	3,940	6,579	33,311
ベトナム	-5,564	1,805	1,168	-573	-6,071	-38,759	-2,066	-20,469	713	11,073	106	50,578

資料：各国貿易統計

図4 ASEAN4（インドネシア、マレーシア、タイ、ベトナム）の域内・域外貿易収支とベトナムの貿易収支（財別）



注：「ベトナムの収支」は、域内・域外合算

資料：各国貿易統計

4. 展望

ASEANの貿易は、大きな転換期を迎えている。リーマンショック後のASEAN貿易は、ASEAN先発国の貿易が頭打ちとなっている中で、ベトナム

ムの貿易が飛躍的に拡大して、ASEAN最大の輸出国として台頭している。ASEAN貿易の牽引役が、ASEAN先発国からASEAN後発国のベトナムに交代しようとしている。

今後のASEAN貿易を展望する視点として、第1にベトナムの貿易の躍進がどこまで続き、ミャンマー等のASEAN後発国がベトナムに続いて登場するのか、第2に、ASEAN先発国は貿易を活性化させることができるのか、第3にASEAN域内貿易の活性化に何をすべきか、ということであろう。

(1) ASEANの新輸出大国、ベトナムの課題と展望

2010年から2016年のASEAN貿易拡大、特にASEAN域外貿易でベトナムの増加寄与率は極めて大きく、これまでASEAN貿易の拡大を牽引していたASEAN先発国の影は薄い（表7）。

ベトナムの貿易を展望すると、チャイナ+ワンの動きが加速化してベトナムへの生産移管が本格化することで今後、輸出の勢いを増すと考える。

ベトナムの貿易拡大は直接投資による。ベトナムの貿易に占める外資の比率は、輸出（2016年）が71.8%、輸入は69.9%と高く、ベトナムの貿易は外資系企業に依存している。特に、携帯電話や家電の輸出拡大は、韓国企業による対ベトナム投資によってもたらされている。

さらに、ベトナムの輸出拡大で注目すべき点は、対中国貿易で水平分業の芽が出てきていることである。中国の繊維メーカーがベトナムで綿糸の生産を開始し、それが中国に逆輸入されている。中国企業の対ベトナム製造業投資は、TPPを契機に繊維産業を中心にして増加しているが、米中貿易紛争の深刻化も中国企業のベトナム投資（中国からベトナムへの生産移管）を促進する。

中国生産からベトナム生産への切り替え、新規投資は中国よりはベトナムという動きが加速する。これまでASEANが経験していた経済発展は、投資が貿易を生むというパターンであった。かつては、日本企業が投資の担い手であったが、ベトナムの輸出拡大では韓国企業や中国企業がその担い手となっている。

表7 ASEAN 貿易拡大に対する増加寄与率（域内・域外別）

1980-1990

2000 1990														
国名	輸出						輸入							
	ASEAN 域内	ASEAN 域外	日本	中国	米国	EU	世界計	ASEAN 域内	ASEAN 域外	日本	中国	米国	EU	世界計
ASEAN5	20.1	79.5	10.7	2.6	22.9	18.6	99.7	14.7	81.9	23.8	2.9	13.9	16.2	96.6
CLMV	0.3	3.3	0.4	0.0	-0.0	0.3	3.6	0.5	2.5	-0.2	-0.0	-0.0	0.3	3.0
ベトナム	0.5	3.0	0.5	0.0	0.0	0.3	3.5	0.5	2.3	0.2	0.0	0.0	0.4	2.9
ASEAN計	20.3	79.7	8.4	2.6	22.4	18.9	100.0	15.5	84.5	23.7	2.9	13.9	16.6	100.0

1990-2000

2000 2006														
国名	輸出						輸入							
	ASEAN 域内	ASEAN 域外	日本	中国	米国	EU	世界計	ASEAN 域内	ASEAN 域外	日本	中国	米国	EU	世界計
ASEAN5	23.9	70.3	9.8	4.3	18.0	13.2	94.2	25.1	66.5	14.8	5.8	13.5	6.9	91.7
CLMV	1.1	4.5	0.8	0.6	0.7	1.1	5.6	2.9	5.5	1.2	0.9	0.2	0.6	8.4
ベトナム	0.8	3.4	0.8	0.5	0.3	1.0	4.2	1.9	4.3	1.0	0.7	0.2	0.5	6.2
ASEAN計	25.2	74.8	10.5	4.9	18.7	14.3	100.0	28.1	71.9	16.0	6.7	13.7	7.4	100.0

2000-2010

		輸出						輸入						
国名	ASEAN 域内	ASEAN 域外	日本	中国	米国	EU	世界計	ASEAN 域内	ASEAN 域外	日本	中国	米国	EU	世界計
ASEAN5	24.5	63.8	6.1	14.4	0.9	6.9	88.3	22.3	64.7	6.8	15.0	4.9	7.6	86.9
CLMV	1.8	8.9	0.9	1.0	2.3	1.5	10.7	2.3	10.5	1.1	3.5	0.6	0.8	12.8
ベトナム	1.2	7.7	0.8	0.9	2.2	1.4	9.0	2.0	9.5	1.1	3.2	0.6	0.9	11.5
ASEAN計	26.4	73.6	7.4	15.5	3.1	8.3	100.0	24.7	75.3	8.0	18.5	5.5	8.4	100.0

2010-2016

国名	輸出						輸入							
	ASEAN域内	ASEAN域外	日本	中国	米国	EU	世界計	ASEAN域内	ASEAN域外	日本	中国	米国	EU	世界計
ASEAN5	0.0	-20.5	-12.4	8.1	6.8	-10.3	-20.5	-6.2	21.5	-13.6	39.2	-5.9	4.7	15.3
CLMV	10.9	113.1	8.4	23.2	23.0	25.1	124.0	10.8	73.8	4.7	22.6	5.0	4.1	84.6
ベトナム	11.0	102.3	7.3	18.5	22.6	21.6	113.3	6.2	63.3	3.8	17.6	4.9	3.6	69.5
ASEAN計	11.1	88.9	-6.1	30.9	29.8	14.8	100.0	4.6	95.4	-9.0	62.0	-0.9	8.8	100.0

資料：IMF; Direction of Trade Statistics（DOT）

ベトナムの課題は、チャイナ+ワンの受け入れ先として、港湾設備や道路、電力のインフラ基盤を一層、充実させることにある。

他方で、ASEAN貿易におけるベトナムの台頭がASEAN域内貿易に与える影響は、まだ小さい。ベトナムのASEAN域内輸入拡大に対する増加寄与率は、2010-2016年間で6.2%にとどまっている（表7）。機械産業の最終財の輸出拠点となったベトナムが、ASEAN貿易に与えるインパクトは、現地部材調達に難点があるベトナム向けにASEAN先発国から必要な部材を供給することができれば、ASEAN域内貿易の活性化につながる。今のところ、ベトナムのASEAN域外輸出の拡大が、ASEAN域内貿易に与えている影響（貿易誘発効果）は、大きくはない。ベトナムとASEAN域内貿易のリンケージは希薄である。

ベトナムは、中長期的にみてASEAN貿易を牽引すると考える。その理由

としては、第1にベトナムの輸出を牽引している韓国企業が、部材の現地調達を高めるためにすその産業の育成に乗り出していることが挙げられる。韓国大手財閥グループの系列企業や中小企業の現地進出が既に始まっており、ベトナムで操業している日系企業とも相まって、ベトナムにおいてエレクトロニクス産業を中心に産業集積が高まる。

第2に、ベトナムにおける相次ぐ量産工場の設立は、労働者の確保を難しくし、賃金を上昇させるだろう。こうした動きは、カンボジアやラオスなど周辺国へ生産シフトを促す一方で、ベトナムの産業を高度化させる機運を高めるものとなると考えられる。

ベトナムは、今、旬を迎えている。人口ピラミッドでは、20代が最大を占めている。人件費は、ASEAN先発国と比べて割安である。物流インフラの整備も進んでいる。駐在員の生活環境も改善している。ASEANにおけるベトナムの時代が、しばらくは続くものと見込まれる。

(2) ASEAN先発国の課題

第2は、ASEAN先発国の貿易停滞にかかわる課題である。タイ、マレーシア、インドネシアの貿易は、域内、域外ともに2010年以降に停滞している。この要因は、高騰していた資源価格の下落の影響もあるが、基本的には、労働賃金高騰、これまで貿易を牽引していた輸出産業の成熟化等で国際市場で比較優位を失う一方で、輸出構造の高度化が遅れたことにある。ASEAN先発国は、貿易の停滞に伴い成長率が鈍化し、中所得国の罫にはまっている。この罫を克服するには、輸出産業の競争力回復が欠かせない。

ASEAN先発国の輸出拡大には、第1は、ASEAN先発国には、現地部材調達が可能な中間財産業が整備されている点でASEAN後発国と比べて優位性がある。労働コストが割安なASEAN後発国は最終財の貿易に比較優位がある。先発ASEANと後発ASEANとの分業を促進する条件は整っている。

第2は、ASEAN先発国は、新たな輸出産業の創出である。その手段の一つが、外国投資の促進であろう。タイやインドネシアの対外直接投資の受け入れ金額は、ここ数年でみて、ベトナムを大きく下回っている（表8）。タ

イでは、投資奨励政策の見直しを行い、高付加化な産業の誘致、経済開発が遅れている地域への投資誘致を行っている。新規輸出産業の育成は、中所得国の罫に嵌っているASEAN先発国にとって喫緊の課題である。

ASEANでは中国の一带一路構想にたいする期待感も大きい。ただし、中国の関与はASEANの輸出を促進することよりも、中国からの輸入を増やすことになる。また、対中輸出を拡大するかもしれないが、対中貿易依存度を高めるだけで、ASEAN域内貿易の発展には必ずしも貢献するとは限らない。一带一路を通じてASEAN諸国間の貿易拡大につながるようなプロジェクトを選択すべきであろう。

表 8 対内投資受入れ（期間累計、100 万ドル）

インドネシア	金額	タイ	金額
	2004-2016		20005-2016
全産業計	149,610	全産業計	103,762
製造業	63,217	製造業計	46,123
製造業比率（%）	42.3	製造業比率（%）	44.5

マレーシア	金額	ベトナム	金額
	2008-2017		2005-2016
全産業計	310,011	世界計	275,300
製造業	106,587	製造業計	134,481
製造業比率（%）	34.4	製造業比率（%）	48.8

資料：各国の直接投資統計

（3）域内貿易の活性化

ASEAN貿易の課題は、域内貿易の活性化である。ASEAN貿易に占める域内貿易の比率は、2016年で輸出、輸入ともに3割にも達していない。1980年からの趨勢でも同じ傾向である。

ASEAN域内貿易は、市場統合が進んでいるEU域内貿易と比べて消費財が占める割合が低い。ASEANはアパレルの輸出国でありながら、輸入は域

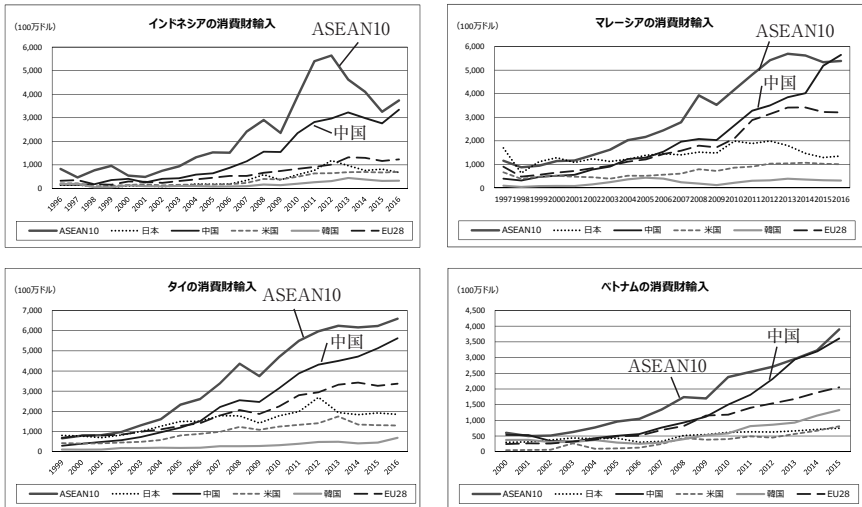
外（中国）に大きく依存している。マレーシアの消費財輸入は、ASEAN域内より中国の方が大きい。インドネシアやベトナムも消費財輸入は、ASEAN域内と中国がほぼ均衡している（図5）。

ASEANのGDPの規模は、日本のほぼ半分にまで拡大している。消費規模（GDPベース）も、日本の半分程度に達している（表9）。消費市場としても、ASEAN全体でみると十分に大きな市場に成長している。ASEANの消費市場をよりASEAN企業に開放することが、ASEAN経済にとってもプラスに働く。消費財の域内取引を活発化させることがASEAN域内貿易の活性化につながるのではないだろうか。

ASEAN市場統合で域内関税率をゼロに引き下げても、それがASEAN域内貿易の拡大につながって事例は、ASEAN各国に生産拠点を構築している外資系企業による域内分業（自動車部品やエレクトロニクス等）やASEAN地場企業による農産物等に限定されているのではないか。

2000～2010年間で平均33.6%で成長していた自動車のASEAN域内貿易は、2010～2015年間には5.6%に大きく鈍化している。外資系企業が担って

図5 ASEAN4の消費財輸入



資料：各国貿易統計

いる機械機器のASEAN域内貿易が鈍化しており、ASEAN域内貿易の不振の一因となっている。

ASEAN域内貿易の活性化には、外資系企業に頼るのではなく、ASEAN企業の育成を支援する取り組みが求められよう。AEC2025では、強靱で包摂的、人間本位、人間中心のASEAN構築を柱の一つに据えている。具体的には、中小企業と開発格差の縮小である。中小企業では、新に零細企業の生産性向上や本場アクセス支援、人材育成等が盛り込まれている。開発格差の縮小ではグローバル・バリューチェーンへの参加支援等が行動計画の内容になっている。AEC2025を内容のあるものとするには、地場企業によるASEAN域内貿易の活性化が必要となろう。

表9 アジアのGDP需要項目の国・地域別構成比（2015年）

（単位：％）

	アジア							オセアニア
		日本	中国	インド	ASEAN5	CLMV	アジアNIES3	
名目GDP	100.0	20.1	50.7	9.6	9.8	1.0	8.7	6.4
個人消費	46.1	11.1	19.6	5.7	4.9	0.7	4.2	3.6
総固定資本形成	34.8	4.7	22.2	2.9	2.4	0.2	2.4	1.7
純輸出（財&サービス）	2.7	-0.1	1.6	-0.3	0.6	-0.0	0.8	-0.1

アジアNIES3・・・韓国、香港、台湾、オセアニア・・・豪州・ニュージーランド

資料：「名目GDP」、「個人消費」、「総固定資本形成」は、ADB。それ以外はBOP

参考資料

大木博巳（2016）『日本のTPP貿易、RCEP貿易』、ITI調査研究シリーズNo.35

国際貿易投資研究所編（2017）『ASEANの新輸出大国、ベトナムの躍進 課題と展望』、ITI調査研究シリーズNo.71

百本和弘（2017）『緊密化が進展する韓国ベトナム経済関係～韓国エレクトロニクス・メーカーのベトナム集積が起爆剤に』、ITI調査研究シリーズNo.74

トラン・ヴァン・トゥ（2017）「ASEANが中所得国の罅を克服するか」、『世界経済経済評論』Vo.61. No.5

石川幸一（2017）『AEC2025とASEANの新たな挑戦』、ITI調査研究シリーズNo.61

春日尚雄（2017）「北部ベトナムにおける非日系企業の躍進と交通インフラの整備」、『国際貿易と投資』No.110